

派遣専門家オリエンテーション資料

# スワジランド

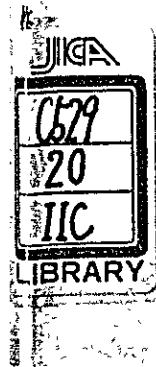
*Kingdom of Swaziland*

任国情報

1995年

国際協力事業団

国際協力総合研修所





## はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成7年3月  
国際協力事業団  
国際協力総合研修所長

JICA LIBRARY



1119464[4]



# 目次

I 概 况 .....	1
II 生活事情 .....	6
1. 食生活 .....	6
2. 衣 料 .....	8
3. 住 宅 .....	10
4. 医 療 .....	13
5. 教 育 .....	16
6. 家庭の使用人 .....	18
7. 交 通事情 .....	20
8. 通 信 .....	23
9. マスコミ .....	25
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ .....	27
11. その他のサービス .....	32
12. 觀 光 .....	34
13. 治安、緊急時の心得 .....	38
14. 出入国手続および帰国手続 .....	41
15. 私財の輸送、引き取り、購入 .....	45
16. 社交 .....	48
17. 任国官公序 .....	49
18. 在外日本関係機関など .....	50
19. 地方都市 .....	51

27584



## I 概況

表-1：スワジランド概況

a) 正式国名	(和文) スワジランド王国 (英文) Kingdom of Swaziland																						
b) 独立年月日	1968年9月6日																						
旧宗主国	英国																						
c) 政体	立憲君主制																						
d) 元首の名称	国王ムスワティ3世（1986年4月即位、世襲制）																						
e) 位置・面積	南緯26~27度、東経31~32度 17千平方キロメートル（注1）																						
f) 首都	ムババネ																						
g) 総人口	85万8千人（1992年）（注1）																						
h) 民族等	スワジ族90%、他にズールー族、シャンガーン族、トンガ各族、 白人は8,000人																						
i) 公用語	英語、スワジ語																						
j) 宗教	キリスト教（約60%）、伝統的宗教																						
k) 历	<p>&lt;日本との時差&gt; - 7時間          &lt;祝祭日&gt;（1995年）（注2）</p> <table> <tbody> <tr> <td>1月1日</td> <td>新年</td> </tr> <tr> <td>3月13日</td> <td>連邦祝日</td> </tr> <tr> <td>4月14~17日</td> <td>イースター</td> </tr> <tr> <td>4月19日</td> <td>国王誕生日</td> </tr> <tr> <td>4月25日</td> <td>国旗制定日</td> </tr> <tr> <td>5月25日</td> <td>昇天祭</td> </tr> <tr> <td>7月22日</td> <td>前国王誕生日</td> </tr> <tr> <td>8月24日</td> <td>ウムランガ（Umhlanga）</td> </tr> <tr> <td>9月6日</td> <td>独立記念日</td> </tr> <tr> <td>10月24日</td> <td>国連の日</td> </tr> <tr> <td>12月25、26日</td> <td>クリスマス、クリスマスの贈りもの日</td> </tr> </tbody> </table>	1月1日	新年	3月13日	連邦祝日	4月14~17日	イースター	4月19日	国王誕生日	4月25日	国旗制定日	5月25日	昇天祭	7月22日	前国王誕生日	8月24日	ウムランガ（Umhlanga）	9月6日	独立記念日	10月24日	国連の日	12月25、26日	クリスマス、クリスマスの贈りもの日
1月1日	新年																						
3月13日	連邦祝日																						
4月14~17日	イースター																						
4月19日	国王誕生日																						
4月25日	国旗制定日																						
5月25日	昇天祭																						
7月22日	前国王誕生日																						
8月24日	ウムランガ（Umhlanga）																						
9月6日	独立記念日																						
10月24日	国連の日																						
12月25、26日	クリスマス、クリスマスの贈りもの日																						
	注：12月または1月にIncwala Ceremonyがあるが、日は年によって異なる。																						

出所 (注1) World Development Report 1994 The World Bank

(注2) The Europa World Year Book 1994 Europa Publications Limited

### (1) 国土の概要

アフリカ大陸南部（南緯26~27度）に位置し、南アフリカ共和国とモザンビークにはさまれた内陸の小国であり、面積は17千平方キロメートル（日本の四国よりやや小さい）である。国土は、トランスバール高原からモザンビーク平原に下る傾斜部にある西部の高原地帯から、標高数百メートルの丘陵地帯を経て、東部の草原地帯へと低下する。また、モザンビークと接する東北部は、国境線に沿って山岳地帯（ルボンボ山岳地帯）になっている。さらに、水量の豊かな河川に恵まれている点も同国の国土の特徴で、北部はコマティ川、ムブルンジ川（ムブルンザネ川が北東地方で合流する）が、中央部はウストゥ川が、いずれも西部から東部に向けて流れ、モザンビークを通ってインド洋に流れ込んでいる。

#### (参考文献)

- 『世界大百科事典』 1990 平凡社
- 『国際情報大事典』 1992 学習研究社
- 『アフリカを知る事典』 1989 平凡社

### (2) 気候

11月中旬から3月下旬が雨期である。気候は地域により大別して3つに分けられる。西部山岳高地は温帯湿润（年間降雨量1,000~2,250mm）で、中央草原及びルボンボ山岳地帯（東部国境沿い）は亜熱帯乾燥（同750~1,150mm）、低地草原（東部）は熱帯（同500~900mm）である（数値は外務省資料、1993）。

#### (参考文献)

- 「スワジランド王国概要」 1993 外務省

### (3) 人口

1992年の人口は85万8千人である（世銀資料、1994）。  
1986年の調査による主要都市人口は、首都ムババネ38,290人、マンジーニ18,084人である（Europa社資料、1994）。

#### (参考文献)

- World Development Report 1994 The World Bank
- The Europa World Year Book 1994 Europa Publications Limited

#### (4) 略史

表-2：スワジランド略年表

年	出来事
1820年頃	スワジ族、ズールー族に追わされて北上し、現在の地帯に定着
1894年	トランスバールに併合
1903年	ボア戦争の結果、英保護領となる
1921年	ソブーザ2世即位
1964年	総選挙
1968年9月6日	独立
1973年	国王により憲法停止
1979年	二院制議会リバンドラ開催
1982年2月	南アフリカ・スワジランド不可侵条約締結
1982年8月	国王ソブーザ2世死去
1983年10月	総選挙
1986年4月	国王ムスワティ3世即位
1993年10月	直接選挙制によるリバンドラ選挙
1993年11月	国王ムスワティ3世がムビリニ王子を第7代首相に指名

出所 『アフリカ便覧』 1992 外務省

『世界年鑑』 1994 共同通信社

Country Report : Botswana,Namibia,Lesotho,Swaziland 4th quarter

1993 EIU

#### (5) 民族等

総人口の90%はバンツー系のスワジ族で、そのほかにはズールー族、トンガ族、シャンガーン族などがある。また、白人とカラード（混血）も少数居住している。スワジ族はトウモロコシなどを主作物として栽培する農耕民族で、牛などの家畜も飼養する。

#### (参考文献)

『アフリカを知る事典』 1989 平凡社

#### (6) 言語

スワジランドの公用語としては英語とスワジ語（シスワティ語）が用いられる。スワジ語は舌打音（クリック）をもっている。

#### (参考文献)

『世界大百科事典』 1990 平凡社

## (7) 宗教

国民の約60%（共同通信社資料、1994）がキリスト教を信仰し、その他は殆どが伝統的宗教を信仰している。

### (参考文献)

『世界年鑑』1994 共同通信社

## (8) 文化

スワジランドは古代王朝の流れをくむ单一民族だといわれている。

一般にスワジ族の伝統が守られており、議員の選挙もこれに従って行われる。また12月から1月にかけて王であるングエニアマ（ライオン）をたたえる祭りインクワラが、また8月の終わりか9月の初めには皇太后ンジョウカシ（メスの象の意）をたたえる祭りウムランガがロバンバで催される。

### (参考文献)

『アフリカを知る事典』 1989 平凡社

## (9) マス・メディア

### 1) 新聞

首都では主な日刊紙として、スワジランド・オブザーバー（約9,500部）、Tikhatsi Tema Swati（部数不詳）、ザ・タイムス・オブ・スワジランド（約11,000部）などがある（Europa社資料、1994）。

### (参考文献)

The Europa World Year Book 1994 Europa Publications Limited

### 2) 放送

1989年12月において、テレビ台数は1万3,000台（受信許可件数）、ラジオ台数は11万7,000台である。テレビ放送は1系統でスワジランド・テレビ放送会社（Swaziland Television Authority 略称：S T V A）が行っている。ラジオは国営のスワジランド国営放送（Swaziland Broadcasting Service 略称：S B S）が2系統の放送を実施しているほか、商業放送2社がそれぞれ1系統の放送を行っている。S B Sは広告放送も行っている。S T V Aは半官半民の組織で、S B Sの管理下にある。

放送開始はラジオが1966年、テレビは78年である。

1991年現在、国内で約12万7千人のラジオ受信者、約1万5千人のテレビ受信者がいる（Europa社資料、1994）。

### (参考文献)

The Europa World Year Book 1994 Europa Publications Limited  
『N H K・データブック・1992 世界の放送』 1992 日本放送協会

表-3：経済指標 [スワジランド]

1) 主要経済指標の推移		(1991)	(1992)	(1993)
GDP (百万エマランジェニ) (注1)		2,413.3	N.A.	N.A.
一人当たりGNP(ドル) (注2)		1,050	1,090	N.A.
実質GDP成長率 (%) (注1)		N.A.	N.A.	N.A.
消費者物価上昇率 (%) (注1)		10.8	8.2	17.0
失業率 (%)			不明	
貿易収支(百万ドル) 輸出額(fob) 輸入額(fob)(注1)		-51.3 580.1 631.4	-90.1 608.1 698.2	N.A. N.A. N.A.
主要輸出入相手国 (注3)	輸出(1989年) 輸入(1989/90年)	南アフリカ(46.5%) 南アフリカ(91.3%)		
経常収支(百万ドル) (注1)		3.3	25.3	N.A.
対外債務残高(百万ドル) (注4)		261.4	237.7	225.6
債務返済比率 (%) (注4)		3.5	3.0	3.8
外貨準備高(百万ドル) (注3)		172	309	264
2) 通貨 (1994年11月末) (注5)	通貨単位: リランジェニ(複数はエマランジェニ) 1ドル = 3.5528 エマランジェニ(南ア・ランドと等価)			
3) 会計年度	4月1日~3月31日			

出所：(注1) International Financial Statistics Yearbook 1994 IMF

(注2) World Development Report 1993, 1994 The World Bank

(注3) Country Report : Botswana, Namibia, Lesotho, Swaziland 3rd quarter 1994 EIU

(注4) World Debt Tables 1994-95 1994 The World Bank

(注5) 「東銀経済四季報」冬号 1995 東京銀行

## II 生活事情

### 1. 食生活

#### 1-1 食 料

##### (1) 一般事情

食品、食材は当地の生活になじむよう心がければ特に問題はない。スワジランドの人の主食はミリミリ（トウモロコシの粉を水で練ったもの）であり、これに野菜、ときには肉（牛か鶏）を添えて食べる。

食品衛生上、特に生野菜や果物は濾過水で洗うことが必要である。

##### (2) 主な食料の出回り状況

米はインディカ米で、スーパーで売られている。食パン、菓子パンはスーパーまたはパン屋にある。

野菜類は、にんじん、キャベツ、タマネギ、じゃがいもなど保存のきくものは容易に入手できる。ほうれんそう、三つ葉、ゴボウなどはない。

果物は季節ごとにリンゴ、バナナ、オレンジ、パイナップル、グレープフルーツなどが求められる。

乳製品は品切れが多い。（コーヒー用のミルクや菓子用のチーズなど）

魚類は、冷凍魚や缶詰がスーパーで購入できるが、一般的に入手困難である。

調味料は各種のものが調達できる。砂糖、食用油、ケチャップ、しょうゆ（中国）、ソースも求められる。

酒類は当地産のビール、輸入物のワイン、ウイスキー、ジンなどが入手できる。

飲料水もスーパーで容易に入手できる。

##### (3) 食料の入手

日本食料品の入手はできない。ただし、中国食料品の一部（たとえばしょうゆ、ラーメン、缶詰類）は売られている。また、カリフォルニア米、ブラジル米を南アメリカの食料品店から購入する。

食料品の一般的な購入先は次のスーパーである。（当国には住居表示はなく、すべて私書箱表示である）

Spar The Mall P.O. Box 112 TEL 40571

OK Bazaars TEL 43256

祝日も営業している食料品店には Ritz Cafe (TEL 42388) がある。このほか地方に野菜と果物の店がある。

#### 1-2 食器・調理器具など

##### (1) 食器・調理器具などの入手

当地で調達可能なものは、冷蔵庫、トースター、フリーザー、電熱器、電気オーブン、料理用ナイフ、金属鍋、陶器鍋、フライパン、茶わん、皿、コップ、フォーク、ナイフ、スプーンである。

##### (2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

電子レンジ、ミキサー、パン焼き器、電気釜など日本で使用していたものはすべて持参した方がよい。

当地の電圧は240ボルトなので日本から調理器具などを持参する場合は、消費電力に見合ったダウントランス(240ボルトから100ボルト)を3ないし4個持参する。

### 1-3 外 食

#### (1) 飲食店

日本からの出張者が利用するレストランは次のとおりである。

華利(中華料理店) P.O. Box 852 TEL 45986

Calabash(ヨーロッパ風各国料理) 当地から車で20分 電話 61187

予約が必要である。特に週末、学期末、クリスマスシーズンには予約しないと座れない。ひと晩一回転である。

チップは約10%である。必ず現金で渡すこと。

#### (2) その他の飲食店

バー、スナックはホテル内以外は利用しない方がよい。

ディスコには次のものがある。

Disc-O-Mania TEL 46721

Why Not Disco TEL 61061

## 2. 衣 料

### 2-1 衣 料

#### (1) 一般事情

当地の年平均気温は最高23℃、最低12℃である。夏は雨季でもあって1日の気温差が甚だしく40℃近くになることも珍しくない。地上温は50℃以上ある。半袖で過ごすが、日によっては長袖が必要であり、夜は急に気温が低下するのでセーターを着用することもある。

冬は冬服が必要である。ただし、夜間勤務者以外はコートを着用することはまれである。降雪はないが、ファイヤープレースに薪、石炭を燃やし、電気ヒーターも使う。

レインコートはあった方がよい程度で、傘は必需品である。レインシューズは屋外作業者以外は必要としない。

当国には繊維産業はなく、すべて輸入品である。主な輸入先は南アフリカ（ケープタウン）である。価格は安いが、日本人の体形には合わない。フランス、イタリアのブランド製品が入手可能で、価格は特に高価ということはない。

#### (2) 日本から持参した方がよい衣料

日本で着用していた衣料はそのまま持参した方がよい。特に下着と女性用衣料は当国では調達できない。タオルはすぐ茶色くなるので、年間4~5枚を要する。

履物は当国では調達できないと考えるべきである。好みの室内ばき（サンダル、スリッパなど）を持参した方がよい。ただし、運動靴は東南アジア製が出回っている。

#### (3) 任国で調達した方がよい衣料

寝具用毛布、シーツ、靴下は調達可能である。

#### (4) その他の留意点

スカーフ、帽子を常用している女性が多い。

手袋は作業用のほかは着用することはない。薪づくり、庭の手入れのため軍手を持参するとよい。また、作業ズボンがあった方がよい。なお、作業用の手袋は市販されている。

### 2-2 礼 装

#### (1) パーティ

各国大使館主催のパーティなどが年に1~2回あるが、フォーマルウェアを着用する必要はない。男性は通常の背広にネクタイで十分である。女性はロングドレスが望ましいが絶対ではない。

#### (2) 式 典

JICA派遣者が当国の式典に参加することはまずない。

#### (3) その他の冠婚葬祭

結婚式に招待された場合は、通常の背広、ネクタイ、ロングドレスでよい。葬式も同様で、特に黒い服装を要しない。

#### (4) その他の留意点

日本から持参した方がよい礼服はない。

冠婚葬祭には、当国民は男女とも裸に近い民族衣装をまとうのが通常である。

### 2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

#### (1) 洗濯

クリーニング店は市内に数店あり、翌日仕上がるが、ドライクリーニングはすすめられない。

アイロン、アイロン台は当国で購入できる。

電気洗濯機は当地で求められるが、日本で使用中のものがあれば持参した方がよい。(多機能なので) また洗濯用網を持参すると便利である。(メイドに手洗いを頼むと破損があることがある)

洗濯物は1日で乾く。

#### (2) 仕立て、修繕

紳士服の仕立店はあるが、すすめられない。婦人服の仕立店、修繕店はない。

#### (3) 保管

特に留意すべきことはない。湿気が少ないので革製品にかびが発生することはない。

衣料や電気製品は鍵のかかるロッカーに保管することが望ましい。

### 3. 住 宅

#### 3-1 住宅事情

##### (1) 一般事情

上流社会の人にとっては、新築の貸家の不足により住宅事情は年々窮屈になっている。中級者用住宅は建築が進み、2階建てアパートの新築が多い。

ホテルはこの10年間当地から約70キロメートル離れた山のなかに1軒リゾートホテルが建った以外は新築されていない。フラットの新築はあるが、すぐ満室となる。

下宿はない。

環境整備が不十分であり、人口の80%の人が電気、上下水道、電話およびガスの設備を持たない。しかし、住宅地域は緑が多い。

##### (2) ホテル事情

Tavern Hotel P.O. Box 25 TEL 42361

市の中心に近い。プール付きである。赴任当初の利用は可能だが、長期滞在はできない。料金は300エマランジェニである。

Mountain Inn P.O. Box 223 TEL 42781

市の中心から約3キロメートル、プール付きで眺望がよい。赴任当初の利用および長期滞在可能である。料金は300エマランジェニである。

Royal Swazi Sun Ezulwini Valley Private Bag Ezulwini TEL 61001

当国最高のホテルで、プール、温泉プール、カジノ、スカッシュ、ゴルフ、テニス、ローンボウリング、レストランシアターの設備を備えている。環境、眺望とも良好である。赴任当初の利用および長期滞在可能である。ただし、車両を要する。料金は500エマランジェニである。

Lugogo Sun Hotel Ezulwini Valley Private Bag Ezulwini TEL 61101

上記のRoyal Swazi Sunの姉妹ホテルで約600メートル離れている。環境良好で、赴任当初の利用および長期滞在可能である。車両を要する。料金は400エマランジェニである。

Ezulwini Sun Hotel Ezulwini Valley Private Bag Ezulwini TEL 61201

上記の2ホテルの姉妹ホテルで準高級ホテルである。Lugogo Sunとは国道をはさんで800メートル離れている。プール、馬場（隣）、テニスコートがある。環境はよい。赴任当初の利用および長期滞在可能である。料金は300エマランジェニである。

Yen Saan Hotel P.O. Box 771 TEL 61051

普通級ホテルで、Royal Swazi Sunに隣接する。中華料理店もある。赴任当初の利用および長期滞在可能である。料金は200エマランジェニである。

##### (3) 住宅の探し方

赴任当初に個人で住宅を探すのは容易ではない。所属先に人事担当部門があり、通常はここで斡旋を受ける。推薦された住居を個別に訪問してチェックし、自分で適否を決める。ただし、所属先が住居費を負担する場合は費用を制限される。

また、斡旋業者がいる。

SPM Estate Agents      TEL 40345  
Buzzy Services          TEL 44690  
VJR                      TEL 40106

新聞広告としては「Royal Swazi Times」（日刊）に上記業者の広告のほか、個人広告が載る。（電話 42220）

そのほか知人の紹介もあり、当地の人は地縁、血縁が濃く住宅情報も持っている。

#### (4) 住宅の選定上の留意点

防犯——あらゆる視点から防犯設備を点検する。赴任当初は盜難などの事情がわからないので、人事担当や少しでも土地の事情を知っている人、職場の人、隣家などから情報を得る。

設備——特に台所、浴室、トイレをチェックする。通常、電気オーブンは備え付けのところが多いが、スイッチを入れて発熱の具合を実際に点検する。特に発熱コイル下部のオーブン部を綿密にチェックすること。浴室（シャワー、給湯：温水器は通常天井裏に設備される）も同様にチェックする。浴室、トイレは2ヵ所あればなよい。トイレは浴室と別になっていることが望ましい。

水道設備はあるが栓の水もれが多い。特にトイレのタンクに多い。断水時の手段も考える必要がある。公共下水道設備は市の中心部にしかなく、新築する家は自家用浄化槽を備え付けるのでこの浄化槽を点検する。

電力は南アフリカからの買電が70%で、たびたび停電する。このためパソコン用の無停電電源装置が必要である。また自動電圧調整器があればなよい。家庭では充電式蛍光灯、ろうそく、懐中電灯が必要である。

住宅は、家具付きと家具なしがあるが、家具付きの場合は契約時に詳細に表と照合する。家具のない場合は所属先と相談する。テーブル、いす、電気オーブンなどを保有していることがある。家具店は当地に数軒あり、ほとんどの必需品を調達できる。

床張りは木床の場合は敷物（布製または草編み）が必要である。できればリビングと寝室および階段はモケット張りがよい。

車庫は必需設備であり施錠を要する。車庫が別棟であるか、または集合住宅のため車庫のみの建物がある時は、降雨時と買い物を考えてなるべく近い場所にあることが望ましい。

環境——高級住宅は通常500坪以上の敷地があり、樹木、草花、芝生を植える。環境のよい住宅は防犯灯の設置、見通し、犬の放し飼いなど防犯上も有利である。

規模——3寝室、1リビング、1ダイニング、1台所、2浴室、2トイレを適正規模とする。戸建て住宅の場合は使用人部屋があることが多い。ここには、寝室、トイレ、台所がある。個人住宅は通常平屋であり、一戸建てが多い。

老朽度——インター・ホン、非常灯などの具合を点検すればよいが、当国の外国人用住宅はロック積み、鉄板棒葺きが通常で、修理店もあることから築後20年程度は特に問題とならない。門から車庫または玄関までのアプローチの舗装が老朽化していることがある。

## (5) 住宅の契約

契約期間は通常1年単位で、借りた人が契約解除するまで有効であり、1年後に追い出されることはない。

所有者が法人、個人にかかわらず毎月銀行小切手で支払うのが一般的である。前払い金は通常必要ない。家賃は双方の意見によるが、おおむね相場がある。3~4年の間に値上げを迫られることは現状ではまずない。

通常、建物本体、建物に付属した設備（ボイラー、扉など）、塀、門から玄関までの舗装は家主持ちである。小さな破損は自己負担（街に電気製品修繕店、各種設備修繕店、錠前店がある）で、所属先で家屋を提供する場合は、居住者が自ら設備したもの以外は所属先で補修してくれる。

## (6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

電話は当地でも新規加入は1年以上待つことが多い。着任したらただちに所属先から緊急架設のレターをもらい、Swaziland Post and Telecommunications Corporation (SPTC: TEL 00268, 43131) の総裁に陳情すること。電話料金は加入料、取り付け料、使用料に分かれる。使用料は課金明細方式である。毎月請求書が郵送されてくるので、郵便局の窓口で支払う。

入居が決まったら水道局、Swaziland Electric Board (SEB) へ行って所定の申し込みと振り込みをする。それぞれ加入料、取り付け料、使用料に分かれる。毎月請求書が郵送されてくるので、水道料は水道局窓口で支払い、電気料はSEBの営業所で支払うが、銀行振り込みも可能である。水道料金のなかには、公共下水道に接続されている住宅の下水道料が含まれている。自家用浄化槽は課金されない。電気料を滞納すると警告書（赤紙）が出され、それでも払わないと送電停止となる。ただし、一時休暇帰国程度では停止されることはない。配電は家屋の壁に取り付けたメーターまではSEBの担当で、それから屋内部分は配電盤も含めて店子の負担である。

都市ガスはない。街にプロパンガスを売る店がある。

ゴミ処理については、週3回、朝ゴミ収集車がくる。これは市役所の仕事で有料であり、水道料金の請求書に含まれている。ゴミの区分はない。

し尿処理については、公共下水道を利用するか、自家用浄化槽による。くみ取り車はない。

## (7) その他

盗難があるため、家具保険への加入を必要とする。

## 4. 医 療

### 4-1 赴任前の準備

#### (1) 予防接種

予防接種の必要はない。ただし、ときどきコレラ、マラリア発生のニュースが流れる。

#### (2) その他の準備

眼鏡は当国で検眼、調整できる。

歯科は不安のないよう出発前に治療すること。

JICAから支給される救急薬品では間に合わないので、胃腸薬、目薬、外傷薬を適宜追加して持参すること。特に2年以上派遣される人は十分に用意する必要がある。

### 4-2 医療事情

#### (1) 医療機関

日本人が利用できる医療機関はないと考えた方がよい。

Governmental Hospital (TEL 42111) ——官庁街の丘の上にあり、孤児院を併設している。JICAのA-1フォームによれば治療は無料である。常に混雑している。医師は外国人が多く、医療器具の多くは破損している。

The Clinic (TEL 42423) ——旧アメリカ慈善団体の創立であるが、現在は民間病院となっている。産科、外科、歯科と薬局がある。入院可能である。支払いは現金または銀行小切手による。医師不足のため市内で開業している医師の応援を得ている。

Dr. Min Clinic (TEL 45630) ——外科であるが内科もみる。Dr. Minは韓国人医師で、もと国立病院に韓国政府から派遣されていた信頼できる医師である。政府高官、各科医師に知人が多いので罹患したら、病気の種類にかかわらず第一に相談すること。

#### (2) 緊急時の対応と措置

大使館（プレトリア）医務官に連絡すること。（電話 07-12-342-2100）

救急車（電話 999）はあるが、ただし、自家用車の方が便利である。

緊急手術は南アフリカの医療機関に頼るしかない。スワジランド人でも、眼科などの高度な手術は南アフリカに行く。

### 4-3 医薬品など

#### (1) 携行することが望ましい医薬品

マラリアの薬——特に発生地に出張する場合。

マンバの解毒剤と注射器——藪のなかで調査などを行なう場合、木の上からブラックマンバ、グリーンマンバが襲うことがある。かまれたら5分以内に注射しないと死亡する。

ダニ防止——牧畜関係者、獣医は必要である。当国ではダニのため牛がやられる。

目薬、サンバイザー——直射日光が強いので余分に準備する。

## (2) 任国で調達できる医薬品

ほとんどの医薬品が調達可能であるが、薬品名(商品名)が異なるので注意する。

医薬分業であり、医師の処方せんを持参して街の薬局で購入する。薬局の主人と懇意にしていると処方せんがなくとも売ってくれることがある。

Mbabane Pharmacy P.O. Box 136 TEL 42817

または医師が直接投薬してくれる。

## (3) 任国で調達できる衛生用品

包帯、ガーゼ、バンドエイドは調達できる。

避妊具、生理用品は調達できるが、日本人向きではない。

## (4) 医薬品を使用する場合の留意点

煮沸消毒済みの水で服用すること。

有効期間の表示はほとんどない。

## 4-4 妊娠、出産、育児

### (1) 妊娠した場合の対応

国立病院に産科専門医の韓国人医師 Dr.Ann が韓国から派遣されている。Dr.Ann および夫人は日本語が話せる。妊娠・出産のすべてにつき初期から同先生に相談すること。

Dr. H.J. Ann 23 Gilfillan ST. (自宅) TEL 43592

### (2) 出産後の対応

母子検診、予防接種はない。

### (3) 育児

育児用品は入手可能である。当国で入手できないものは、事前に南アフリカにでかけて調達する。

## 4-5 手術

### (1) 任国で可能な手術

おできの切開、犬にかまれた傷の縫合、がん手術の腹部切開があるが、特定医師(Dr. Min) の個人技術に頼るしかない。

### (2) 手術設備の状況

設備の整った医療機関はない。国立病院のレントゲン機は3台のうち1台のみ稼働している。ベッド不足で一部の患者は床に寝ている。

### (3) その他の留意点

入院はすすめられない。どうしてもという場合は、The Clinic に入院のうえ南アフリカまたは日本へ転送するのがよい。

## 4-6 任国でよくかかる傷病

### (1) 一般の疾病

皮膚病(頭から足まで多発している)、インフルエンザ、熱病(原因不明)、消化器系疾病、食中毒、栄養失調、肺炎、流産がある。

### (2) 風土病・伝染病

マラリアーー地方で一時的に発生する。

コレラーー突然ある地域に発生する。死亡は僅少である。

性病——保険統計上、外来患者の最多数を占める。

ライ病——当地から北約30キロメートルのところに専門の収容施設があり、外国のミッション団体がお世話をしている。

結核——年間500人以上が死亡している。

エイズ——当国国連支部の非公式調査によれば、国民の22%がかかっている。

### (3) 有害動物、病害虫

蚊——マラリヤ蚊がいる。当国の蚊は小さめで音も小さい。

ハエ——家畜を飼っている地方に多い。

毒ヘビ——ブラックマンバやグリーンマンバがいる。

サソリ——岩山に群生している。測量や電波測定の時は丈夫な編み上げ靴を着用する。

ダニ——家畜を倒すダニがいて、人体にも寄生する。皮膚から引きはがすと腹部のみとれ、頭部がますます内部に潜る。したがって、ダニを発見したらバターを塗りダニが窒息して出てくるのを捕らえる。

## 4-7 保健衛生

### (1) 飲料水

一般に利用する飲料水は水道水であるが、生水は絶対に飲んではならない。また、ホテルやレストランの氷は煮沸濾過していない。スーパーにはミネラルウォーターがある。ポンプでくみ上げた水をカスケードウォーターとして売っているところがある。

国民の大部分は川の水、雨水、井戸水を使っているので消化器を傷め、伝染病が多い。

### (2) 濾過器の入手法

当国で販売しているのを見たことがない。日本から持参するメーカーは、例えば「BRITA」ドイツ製がよく機能している。

### (3) その他の留意点

睡眠を十分にとる。1,000メートル以上の高地であり乾燥しているので疲労やすい。

皮膚を傷つけないこと。傷ついたら、ただちにバンドエイドで巻くこと。散髪も自宅で行なう。

寝具をよく日に干すこと。

果物以外は生ものを食べないこと。

## 5. 教育

### 5-1 教育事情

#### (1) 一般事情

学校は Pre-School (4~5歳)、Primary School (6~12歳)、Secondary School (13~15歳)、High School (16~17歳)、Pre College (18~19歳)、University がある。University には農学部、科学部、人間学部、芸術学部、商学部、マスターコースがある。そのほか、

Swaziland College of Technology、師範学校、看護学校がある。

英語は小学校から授業があるので、相当のレベルに達する。また、英語ができなければ就職できない。

すべての学校で授業料は有料である。授業料滞納のため退学になるケースが多い。

#### (2) 日本人学校

ない。

#### (3) 現地校、外国人学校

日本人子弟が編入可能な当地校は次のとおりである。

##### ・公立

Primary School Sifundzani      TEL 42465

市の中心部にある。

##### ・私立

Primary School St. Mark's      TEL 42596

Secondary School St. Mark's    TEL 42591

市の中心部にあり、環境良好、高級校、寄宿制度がある。

インターナショナルスクール (Waterford) は Pre-School から Pre College まである。

市の中心部から車で 15 分の丘の上にあり、環境良好な学園村である。寄宿制度がある。

#### (4) 幼稚園

Pre-School Portuguese Club    TEL 42319

市の中心部にある。

### 5-2 入学手続および授業料

#### (1) 日本人学校

ない。

#### (2) 現地校、外国人学校

各学校に備え付けてある申込用紙で入学前年の3~6月に申し込む。その後、入学試験があるが、口頭試問程度である。

入学金は用紙代程度である。授業料は公立校で年間 200 エマランジェニ、St. Mark's の高校、高学年で年間 1,200 エマランジェニ程度である。ただし、寄宿生は 1,300 エマランジェニ程度を要する。

通学は父兄が車で送迎する。

学年は 1 月に始まり 3 学期ある。各学期は前年度に始終月日が掲示される。休校日、行事、祝日は学年開始前に掲示される。

(3) 幼稚園

同上。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

中心部にアメリカ大使館付属図書館、公共図書館が、外務省の付属建物内に国立図書館兼公文書図書館がある。

(2) スポーツ施設

エズルウニ地区に乗馬施設がある。国立サッカー場がロバンバにあるが子供は利用できない。

スイミングプールがホテル内にある。

Royal Swazi Sun に温泉プール、スカッシュ場、ローンボウリング場がある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語をアルバイト的に教えている人がいるので、家庭教師につくことは可能である。また、希望によってホームステイもできる。

レンタルのピアノがあり、教師につくこともできる。

塾はない。

(2) 通信教育

日本から通信教育を受けることは可能であり、また当国のように日本人学校のないところでは必要である。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

出発前に滞在年数や児童の学年をもとに海外子女教育振興財団で詳細な指示を受けること。

美術、工芸、スポーツなどの実技習得が困難なので、国語、算数などだけでなく日本国内の相当学年にある教科に留意する必要がある。

## 6. 家庭の使用人

### 6-1 運転手

#### (1) 雇用

運転手付きレンタカー以外は雇用しない。

雇用方法は新聞広告、知人の紹介により、面接のうえ選考する。

契約書は必要であり、契約事項は賃金および支払い方法、勤務時間、休日、休暇、休日出勤、超過勤務、通勤、解雇条件である。当国ではボーナス、昇給、食費、退職金については特に契約することは少ない。

#### (2) 日常管理

出退勤は一般に記録しない。

走行は Log Book に毎日記録させ、Fuel Book で燃料、潤滑油を入れる。辺地では雇用主が現金で払う。

部品、保守は毎日点検し、地方にでかけたら、毎日洗車するようとする。

#### (3) 教育指導

危険な追い越しをしないよう指導する。

制服を支給した方がよい。

#### (4) その他の留意点

該当情報なし。

### 6-2 メイド／サーバント

#### (1) 仕事の種類と人数

当国では外国人のみならず当地の人もメイドを雇用していることが多い。また、常用のメイドではなく、掃除、子守などのパート的なメイドを雇用している人も多い。仕事内容は皿洗い、洗濯、掃除、子守（子守専用のメイドがよい）で、料理と給仕は通常させない。

メイド希望者はたくさんいる。住宅事情により住込みと通いとがある。特に大規模住宅であるとか家族数が多いとか幼児がいる場合を除き、1人雇用している。

#### (2) 雇用

知人の紹介による。または外国人に雇用された経験のある人を雇用する。選考方法は面接のうえできれば第三者の意見を聞く。

契約書は必要である。

契約事項は勤務時間、休日、休暇、休憩時間、禁止事項、解雇条件、試用期間などである。賃金は通常、月末に現金で払う。ボーナス、食費、退職金は特にない。超過勤務を依頼した場合は臨時に若干支給する。昇給はインフレのレートを考慮し、半年か1年ごとに若干引き上げる。

当国には雇用法があり勝手に解雇できない。しかし、契約書に違反したということであれば自由である。

#### (3) 日常管理

制服を支給することが多い。

### 6-3 庭師、ガードマンなどの雇用

#### (1) 雇用

一戸建て住居には、庭師を必要とする程度の庭と樹木があるが、毎日の勤務でなく、週に2~3日の勤務で十分である。庭の手入れのみならず洗車や力仕事も依頼できる。

雇用方法は知人の紹介、また、ゴルフ場のキャディーに依頼する方法もある。面接し、信頼感を第一とする。

契約書は必要である。契約事項は賃金（最低賃金法がある）および支払い方法、勤務時間、休日、休暇、禁止事項、解雇条件、試用期間などである。ボーナス、交通費、食費は通常ない。超過勤務や例外的労働にはそのつど現金を支給する。

ガードマンについては、警備会社から訓練されたガードマンを派遣してもらうことができる。

Cash Security Service	TEL 46254
Elite Security	TEL 46118
Guard Alert Security	TEL 46254
Swaziland Security Guard	TEL 43509
Swaziland Security Academy	TEL 44183

契約書は警備会社に備えてある。ただし、この契約内容は会社の免責事項が多いので十分チェックのうえ、当方の条件を追記すること。番犬付きの契約もある。勤務時間は、6:00~18:00と18:00~6:00の2種類がある。休日は週に1回、曜日が決まっていて、祝祭日にも勤務がある。休日には代替要員がくる。警備会社は、ガードマンの勤務状況をパトロールする。

会社所定の制服を着用している。

気に入ったガードマンがいれば、特に個人指定して勤務してもらうことができる。

## 7. 交通事情

### 7-1 交通手段

#### (1) 一般事情

自家用車による交通が一般的である。

タクシーは、バス乗り場の隣にあるタクシー乗り場に駐車している。タクシー乗り場で予約する、ホテルから呼ぶ、流しを捕まえるなどの方法があるが、外国人がタクシーを利用することはまれである。

国内バスはすべて民営である。主要都市の中央にバス乗降場がある。定期券、回数券はない。また、南アフリカ相互乗り入れの国際バスがあり、出稼ぎ人などが多く利用する。

道路の舗装率は約10%で、主要幹線は逐次整備されつつある。特に当地からマンジーニまでハイウェー計画があり、約20%が完了した。王宮と国の数ヶ所の離宮の近所はザラザラの舗装がしてある。

地方道路はラテライト土質で車が通過すると黄塵万丈となる。バルブ材を育成している人工林地帯には、私道の林道が発達している。

鉄道は貨物輸送のみで、旅客用はない。

国内航空便はない。国際航空は Royal Swazi Airway's (TEL 43486) が運航している。機種はフォッカー社の F-100 などで、40 人乗り程度である。

#### (2) 自家用車を利用する場合

外国ナンバーの車で国境を通過する時は課税される。

当国は山岳国で坂が多いので、エンジンブレーキが必要である。

無理な追い越しで衝突している車が多い。車検はなく、古い車が走っている。昼夜間とも放牧の牛や羊が道路を歩いている。前の車から荷物が落下するので、十分車間距離をとること。特に上り坂が危ない。西日が強いので夕刻に西に向かって走行する時は要注意である。サングラスをかける程度では十分でない。

夜間運転は極力避けること。また、停車すると強盗に襲われることがある。赤信号でも安全を確認して停車せず走行すること。

有料道路はない。ガソリンは 93 と 97 (ハイオク) の 2 種類である。価格は日本の半額以下である。

#### (3) レンタカーなどを利用する場合

Imperial Car Rental 電話 84396 (空港)、40459 (市内)

Hertz 電話 84396 (空港)、40459 (市内)

カードでの支払いは可能である。現金払いの時はデポジットを要求される。料金は料金表による。セダン以外は予告を要する。また、いずれの場合も予約を必要とする。申込用紙に記入しただちに借りられる。空港で借りた車を市内で返還することができる。

運転手は雇用可能である。

レンタカーはすべて南アフリカのナンバーである。

保険がかかっており、事故や故障の時は代替車を利用できる。

#### (4) 道路地図

レンタカー会社で国内および当地とマンジーニの市内地図を入手できる。また、市中心の商店街に観光案内所があり、国内地図を入手できる。

Shell 発行の国内地図、AZ 社発行の南部アフリカの地図がある。

国内道路には路線名がない。

### 7-2 交通事故

#### (1) 対処方法

事故を起こしたら、通行中の車に警察への連絡を依頼する。警察緊急用電話は999番（全国）であるが、電話の普及率は低く、緊急通報装置はない。なお、警察の扱いは比較的公平である。

車両故障の場合は派遣先のオフィスに救援を頼む。また、修理工場に連絡してレッカー車の派遣を頼む。例えばAtlasmotor (TEL 44971) には24時間サービスのレッカー車がある。

牽引は坂とカーブが多いのでロープ状のものより金属棒がよい。

保険会社の申告、査定は面倒である。

#### (2) 救急病院

当地

Governmental Hospital	TEL 42111
-----------------------	-----------

Mbabane Clinic Service	TEL 42423
------------------------	-----------

Lubombo

Good Shepherd Hospital	TEL 34133
------------------------	-----------

Manzini

Releigh Fitkin Memorial Hospital	TEL 52211
----------------------------------	-----------

T.B. Hospital	TEL 55170
---------------	-----------

National Psychiatric (Mental Hospital)	TEL 55170
--	-----------

Piggs Peak

Piggs Peak Governmental Hospital	TEL 71111
----------------------------------	-----------

Hlatikulu

Hlatikulu Governmental Hospital	TEL 76111
---------------------------------	-----------

Mankayne

Mankayne Governmental Hospital	TEL 88311
--------------------------------	-----------

#### (3) 盗難

該当情報なし。

### 7-3 交通違反

#### (1) 交通法規

左側通行である。交通法規は万国共通のもので信号や標識に変わったものはない。常時左折可能な交差点が多い。

国内に有料駐車場はない。路上駐車は標識内に駐車すればよい。標識のないところに駐車しても罰金をとられることはまずない。二重駐車は罰金をとられる。

制限速度は80キロメートルであり、部分的に60キロメートル、40キロメートル

のところがある。

国内の事件発生、盗難車のチェック、年末警戒などで検問されることがある。交通警官は制服の上に蛍光塗料のたすきをかけている。パトロール車は濃紺に塗り、屋根に回転灯をつけている。

## (2) 対処方法

罰金は違反切符が発行され、現金払いを求められる。

主としてスピード違反であるが、10キロメートルのオーバーで20エマランジェニ程度である。

## 7-4 車の修理

### (1) 部品

部品、純正部品のみの販売店、カーアクセサリー店はない。各修理工場のなかに部品倉庫がある。通常の部品は各メーカーのものがストックしてあるが、形式の古いもの、特殊なものは南アフリカからとり寄せるので日数がかかる。フロントガラスは特殊部品であり、保険上も別扱いである。(石があたった時、穴はあかないが亀裂が入るものは当国では適当でない)

各メーカーの部品を相互流用することが行なわれている。エアフィルターのサイズが合わないことがたびたびある。日本語の部品名とは異なることがある。

### (2) 修理工場

主な修理工場は、販売店とガソリンスタンドも兼ねている。

トヨタ・日野系

Leites Motors TEL 43536 (当地)、53635 (マンジーニ)

ニッサン・ホンダ・ベンツ系

Tracar TEL 41295 (当地)、52561 (マンジーニ)

イスズ、スズキ、オペル系

Swazi Delta TEL 43501 (当地)、53440 (マンジーニ)

マツダ、三菱、フォルクスワーゲン、アウディー

Cooper Motors TEL 41221

このほか、中小修理工場が5~6カ所ある。また、エアコンや板金の専門工場、ロータリーエンジンを得意としている工場、塗料専門店がある。

修理はオーダー制で、こちらの希望するところだけを修理してくれる。修理技術はまあまあで、メカニックはモザンビークからのボルトガル系人が多い。

車検制度がないので、定期的に修理工場へ点検に出した方がよい。(このため懇意なメカニックをつくるとよい)

## 8. 通信

### 8-1 電 話

#### (1) 一般事情

電話普及率は100人当たり1.8台であるが、都市部に集中し、地方は非常に少ない。日本の無償資金協力により、1995年2月デジタル加入者無線方式による地方電話網が完成した。

都市部には商店街に公衆電話があるが、常に順番待ちの列ができている。

申し込んでも最低1年は待たねばならない。地方では5年待ってもつかないところも珍しくない。このため、企業によっては自前の通信網を持っている。政府機関や大きな企業、銀行などは構内電話の自動接続システム(PBX)を設置している。各都市の電話局を結ぶ中継線数が不足している。また、地勢が山岳地帯なので加入者当たりの建設単価が高い。落雷による被害が多く、サーボ電流によりアレスタ(保安器)が飛ぶ。

#### (2) 国内電話

国際規格に適合しているので、通話方法は日本と同じである。国内電話は自動電話であるが、ごく一部に手動方式がある。

電話局ごとに、3~8までの地域番号がつく。料金は取り付け料(加入料)が84エマランジェニ、使用料は1ヶ月8.25エマランジェニである。加入を取り消す場合は取り付け料が戻る。夜間割引があり、18:00~6:00、および休日は半額となる。

#### (3) 国際電話

モザンビークと南アフリカの一部には長距離回線を引いているが、その他の国へは衛星地上局経由である。

南部アフリカには域内通話料金制度があり、当国ではレソト、モザンビーク、南アフリカとの相互間に適用される。通話料は各国間の距離により異なる。ちなみに、日本へは1分10.12エマランジェニである。18:00~6:00のおよび休日は半額となる。

### 8-2 電 信

#### (1) テレックス

回線状況は電話回線と同様で普通である。官庁・企業では現在もテレックスを使用しているが、加入数は減少傾向にある。

国際テレックス料金は、例えば日本へは1分9.15エマランジェニである。

#### (2) ファクシミリ

ファックス専用線、電話との共用回線とも可能である。ファックス機のレンタル(Nashva Swaziland TEL 43295)もある。

国内、国際ファックスサービスは中央郵便局にある。着信した場合は電話で通知してくれるので、中央郵便局にとりに行く。

#### (3) 電 報

電報は普通郵便局で受け付ける。委託郵便局ではできない。

国内電報は10語まで80セント、1語増すごとに8セント支払う。域内電報(ボツワナ、レソト、マラウイ、モザンビーク、南アフリカ、ナミビア、ジンバブエ)

は1語ごとに15~20セントである。

国際電報は、例えば日本へは1語2エマランジェニである。

### 8-3 郵便

#### (1) 一般事情

中央郵便局（Post St. TEL 42341）のほか、地方郵便局が27局ある。取り扱い事務は郵便、小包、郵便為替、電報である。EMS便も扱っている。

日本から送付する場合の留意事項は、次のとおりである。

食料・衣類は開封されることがある。日本郵政省所定の郵バックは開けられたことがない。

あて先を Swaziland Africa とすると Switzerland とまちがえられない。

配達制度はなく、私書箱による。私書箱代は年間24エマランジェニである。航空便は通常2週間程度を要する。

DHL便は市内に支店があり、この便に限り本人まで届けてくれる。

小包は私書箱に通知書が届くのでこれを持って行き窓口で受け取る。

#### (2) 課税

印刷物、小さな小包以外は課税対象となる。一般に、関税、売上税5%、重量税がかかる。例えば、日本食料品10キログラムの場合、関税約20エマランジェニ、売上税と重量税が約15エマランジェニ程度である。

## 9. マスコミ

### 9-1 新聞

#### (1) 主な日刊紙

Times of Swaziland 社 (P.O. Box 156 TEL 41550) があり、「The Times of Swaziland」(英語、日刊)、「The Swazi News」(英語、土曜日)、「Times Sunday」(英語、日曜日) を出版している。

「Swaziland Observer」(英語、日刊) もある。

街頭の露天やスーパーの入口で現金払いでの購入。書店と契約し、前払いでの送料込みでの発送を依頼できる。

#### (2) 本邦日刊紙

OCSサービスによる購読ができる。当国には取扱店がないので申し込み、支払いなどすべて日本で行なう必要がある。平均送達日数は2週間程度である。宅配ではなく、郵便局の私書箱扱いとなる。

#### (3) 欧米紙

「The New York Times」などはOCSと同様のサービスがあり、大使館などで利用している。購読や申し込みについては各社に問い合わせること。

また、英語以外の外国語の新聞は書店などで売られているが、南アフリカからの輸入である。

### 9-2 ラジオ

#### (1) ラジオ放送局

政府放送局 (Swaziland Broadcasting Service : SBS) は英語 (FM 91.6 メガヘルツ) と現地語 (FM 88.5 メガヘルツ) で放送を行なっている。

民間放送局としては Trans World がキリスト教伝道を放送している。

#### (2) ラジオジャパン

市販の短波受信機で、日本からのダイレクトのみ受信可能である。冬季は比較的よいが、夏季は非常に悪く、正午の放送のみがかろうじて聴取できる程度である。

#### (3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBC、VOAは中波、短波とも非常によく聴ける。

### 9-3 テレビ

#### (1) テレビ放送局

Swaziland Television Authority (STVA) 1社のみである。

ブースターを付加することで南アフリカの放送が受信できる。

放送時間は、STVAが17:30~23:20、南アフリカのTV1が5:55~23:50、TV2が11:57~0:00である。

#### (2) テレビ受信

PAL方式である。日本から受像機を持参する場合は、電源電圧が240ボルトであること、PAL方式が受信可能であることをチェックする。

レンタルテレビが多い。Swaziland Television Authority Rentals (STAR TEL 43452) で加入料と年会費を支払う。週、月、年の契約がある。

地方には商用電源がないので、電池式のテレビも販売されている。

取り付けは自由であるが、新しいアンテナをみつけるとSTARの職員が加入の勧告にくる。

ケーブルテレビはない。(ただし、ホテルなどでは衛星放送の受信設備がある)

## 10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

### 10-1 映画、演劇

#### (1) 映画館

当地にある唯一の映画館 Cinelux Cinema のほか、ホテル内にも Casino Cinelux がある。

#### (2) 劇場

ホテル付属の会議場 (Royal Swazi Sun Convention Center TEL 61001) で臨時に演劇などの催し物がある。

### 10-2 出版・書籍

#### (1) 一般事情

主な出版物は政府刊行物である。

芸術的な絵画、文芸作品の出版はない。

書籍は南アフリカからの輸入が多い。

#### (2) 書店

Africa South Books in Swaziland	P.O. Box 456	TEL 45561
Book & Pen	P.O. Box 380	TEL 46619
Sebec Ltd.	P.O. Box 155, Manzini	TEL 52429
Swaziland Academic Services	P.O. Box 502, Manzini	TEL 52497
Swaziland News Agency (SNA)	P.O. Box 157	TEL 42660
Text Book Centre (教科書専門店)		TEL 44062
Websters		TEL 42560

輸入図書は SNA か Websters に依頼する

### 10-3 語学学習

#### (1) 語学学習施設

公私立の学校以外に語学学習施設はない。

Portguese Club (TEL 42319) でポルトガル語の講座が開設される。

#### (2) 家庭教師

生徒の家にきて個人的に英語を教えてくれる人がいる。

雇用方法は知人を通じて個別に依頼する。

### 10-4 文化活動、文化施設

#### (1) 一般事情

外務省の建物内に常設展覧会場があり、年に2回程度、民芸品や絵画の展示がある。

マンジーニに常設博覧会場があり、年に1回、独立記念日の折、1週間程度開かれる。また、国の鉱山開発、工業製品などの展示も行なわれる。

当地から 20 キロメートル離れたロバンバに国立博物館がある。石器時代からの民族資料、独立前後の写真、ソブーザ 2 世の遺品などがある。入場料は無料で毎日 8:00~16:00 に開館している。

常設美術館はない。年に 1~2 回国立図書館に隣接している展示場で素人の絵の展示即売会がある。

動物園については、次のとおりである。

酋長が経営し、宿泊施設もあるのは、次のものである。

Malolota Nature Reserve P.O. Box 1797 TEL 43060

次のものは国営であり野生動物を放し飼いにしている。インパラ、サイ、オーストリッヂ、カバなどがある。一般に観光客用である。

Halne Royal National Park P.O. Box 33 TEL 61591

Mlilwane Wildlife Sanctuary P.O. Box 33 TEL 61591

Mkhaya Game Reserve P.O. Box 33 TEL 61591

- (2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容  
ない。

- (3) その他の文化活動、文化施設

キリスト教が16世紀中葉に伝道されてから、一部の伝統的宗教を除いて当国はキリスト教国となった。その後、各種宗教活動が行なわれている。

#### 10-5 写真、ビデオ

- (1) 写 真

アグファ (ASA100の36枚が14.4エマランジェニ、24枚が12.3エマランジェニ)、フジ (ASA100の24枚が13.2エマランジェニ)、Swisscolor (ASA100の36枚が13.0エマランジェニ) がある。

DPEサービスは可能で、10時間サービスもある。

Fotorama TEL 44250

Omnifoto TEL 46462

Photofix TEL 42068

また、カメラ用小物の調達可能である。

- (2) ビデオセット

Omnifoto (TEL 46462)、OK Bazaars (TEL 43256)、Spar The Mall (TEL 40571) で調達可能である。そのほか、電気器具店が数店ある。

レンタルビデオショップとしてはTop Video (TEL 45739) があり、土・日曜日も開店している。会員制もある。(入会金不要) 料金は最新版で1晩12エマランジェニである。

- (3) ミュージックテープ

SNA、Websters のほか、街頭でも売られている。

#### 10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

- (1) 音楽会、コンサート

キリスト教会でクリスマスやメモリアルデーに開催される。

職場の同好会がある。

- (2) コーラス、演奏グループ

職場の同好会がある。

キリスト教会にコワイアがある。

- (3) ピアノなど

楽器店はない。

レンタル、リースは個人的に可能である。運送は南アフリカ・ダーバン港経由で信頼はおける。

(4) レコード

S N A、Websters のほか、街頭で売られている。

(5) 民族楽器

ドラム (Sigubu という) が各種ある。

弦楽器 (Makoyane という) は1弦の楽器でスティックでひく。また、祭りの時、踊り子が足首に巻くカスタネット (Lifahlawane という) がある。

(6) その他の楽器

吹奏楽器が大部分で鼓笛隊用である。

特に教室はない。また、レンタルもない。

## 10-7 手芸、絵画、美術工芸

(1) 手芸

All Stationery (TEL 41122)、SNA で求められる。また、Manzini Market で求められる。

政府は観光資源として民芸品の授産所を各地に設置している。また、中国から専門家が派遣されており、製作指導にあたっている。年に1回、展示即売会が当地である。

(2) 絵画、美術工芸

絵画、美術工芸品店は、次のとおりである。

H.M. Stationary	TEL 45207
Swaziland Jewellers	TEL 42460
Conway Nyman	TEL 42566
H.W. Glassworks	TEL 52360
P.G. Glass	TEL 40496
Grphic Design	TEL 44618
H.K. Leather Craft	TEL 52664
Indingilizi Art	TEL 46213
Mantenga Craft	TEL 61136
Ngwenya Glass.	TEL 44157
Swazi Candles	TEL 83219
Tishweshwe Craft	TEL 83336

## 10-8 趣味

(1) 園芸

種苗は次のところで入手できる。

Carters	TEL 44230
Cleanacres	TEL 44973
African Landscapes	TEL 45057
Girdwood	TEL 61349
Hortus	TEL 44310

また、肥料、植木鉢、園芸用品も容易に入手できる。スラシャーやガソリン芝刈り機も市販されている。

個人住宅は庭が数百坪あるので園芸が盛んである。高さ10メートルを超す樹木やバナナ、アボカド、パパイヤなども庭木である。植物はアフリカ南部独特のものがある。

## (2) 釣り

海釣りをするにはインド洋に面するセントルシア、南アフリカのダーバンへ行く。川釣りをしている人はほとんどみない。

人造湖にはブラックバスがいる。サトウキビ畑の灌漑用につくられた人造ダムは水上スキーができるほど広大であり、ここでボートを借りて釣りができる。

釣り道具は市販されている。

## 10-9 娯楽、遊戯など

### (1) 娯楽、遊戯、ゲーム

スポーツ、カジノなどが主である。

当国で法律上禁止されている娯楽、ゲームはきかない。

### (2) 芸能興行

市の中央とムババネスポーツクラブの向かい側の2ヵ所に公園があり、子供の遊戯施設がある。

ディスコも数軒ある。

## 10-10 スポーツ

### (1) ゴルフ

Royal Spa Golf Club (TEL 61001) ——当地から車で約20分の国道沿いにある。会員制であるが、ビジターも紹介なしでプレーできる。入会金は500エマランジェニ、年会費は600エマランジェニである。グリーン・フィーは、会員は9ホール8エマランジェニ、18ホール12エマランジェニ、ビジターは9ホール20エマランジェニ、18ホール35エマランジェニである。キャディ・フィーは、9ホール12エマランジェニ、18ホール22エマランジェニである。

ゴルフ用具は、ゴルフ場内のプロショップまたは市内で調達可能である。

日本から持参すべきものは原則的にはないが、手袋は市販のものはサイズが合わないことが多い。ゴルフウェア、シューズについても調達可能であるが、サイズが合わないことが多いので持参した方がよい。

服装に関するエチケットは日本と同じである。

### (2) テニス

Royal Swazi Sun、Lugogo Sun、Ezulwini Sun のホテルにはテニスコートがあり、宿泊者は無料で利用できる。そのほか、次のものがある。

Mbabane Club (TEL 46531) ——会員制で、会費は独身者が450エマランジェニ、妻帯者が680エマランジェニである。サッカー場、ゴルフ場も付属している。

### (3) 水泳

Royal Swazi Sun、Lugogo Sun、Ezulwini Sun、Mountain Inn、Tavern の各ホテルにプールがある。また温泉プールはRoyal Spa Golf Clubの隣、国立サッカー場の隣、

ロバンバ国會議事堂の近く、の3ヵ所にある。

プールの水質は、自動清浄装置が付属しており清潔である。

海水浴は南アフリカのダーバンまたはケープタウンへ行く。

(4) その他のスポーツ、用具、ウエア

乗馬、スカッシュ、ローンボウリング、サッカーがある。サッカー場はロバンバの国立サッカー場、Mbabane Club にある。

市内にスポーツ用品店が2店あり、ほとんどの用品を販売している。世界的ブランド品が日本より安い。必要なウエアはほとんど入手できるが、寸法が合わないことが多い。

(5) スポーツクラブなど

Mbabane Club、Royal Spa総合クラブがある。各クラブに入会申込用紙がある。紹介者を要する場合がある。

10-11 子供の遊び

子供同士の訪問は車による送迎が必要であるが、安全である。自宅の庭が広いので、そこで遊べる。

南アフリカには日本人学校があるので、機会をつくって日本人の子供と交流するといい。

人形、スポーツ用品などは入手できるが、満足できるものはない。日本から持参するか、南アフリカで購入する。

## 11. その他のサービス

### 11-1 金融機関

主な銀行は、次のとおりである。

Barclays P.O. Box 667 TEL 42691

もっとも親切で応対も早い。

Standard Chartered P.O. Box 68 TEL 43351

Central Bank P.O. Box 546 TEL 43221

日本銀行に相当する。

Meridien Biao P.O. Box 261 Eveni TEL 45401

商工銀行の性格を持つ。

Stanbic TEL 46589

Swaziland Development & Saving TEL 42551

商工銀行の性格を持つ。住宅金融も行なう。

Swaziland Building Society (TEL 42107) は個人住宅、店舗などに対する金融機関で、市内に2店、その他の町にも支店がある。金利は18%程度である。

口座を開設するには、口座申込用紙に記入する。必要書類は所属機関の証明書、口座開設申込者の身分証明書である。他銀行に口座があれば信用証明をとる。

閉鎖は、申し込むだけでよい。

買物には銀行小切手が便利である。小切手帳は40枚で手数料7エマランジェニである。

引き出しは小切手を使う。いちどに1,000エマランジェニまで可能である。トラベラーズチェック、現金を当地通貨に交換する時は、パスポートが必要である。自分の銀行口座から外貨建てのトラベラーズチェックを発行してもらう時は、所属先から給料を受け取っていないという証明書（自国通貨の持ち出しではない）が必要である。

あらかじめ東京銀行ニューヨーク支店などにドル口座を開設しておき、この小切手で当国の銀行に適宜投入しておくこと。2つ以上の口座をつくっておくと危険分散になる。

ランドは当国でそのまま通用するが、エマランジェニは南アフリカでは通用しない。ランドが必要な場合は、引き出しあるいは交換時に窓口でその旨申し出ること。口座のある銀行の支店が南アフリカにもある場合は、エマランジェニの小切手が南アフリカでも通用する。なお、当国では南アフリカのランド以外の外貨は通用しない。

為替は変動相場制である。

### 11-2 コンピュータ

IBM互換機およびマッキントッシュについては、当地で購入またはリースが可能である。ソフト関係（ただし、英語版）も最新のものが購入できる。また、プリンターなどの周辺機器も購入、リースともに可能である。

Clive Allen & Associates TEL 40482

Computronics TEL 45504

Comtech TEL 40971

Panasonic TEL 43419

所属機関などでコンピュータを導入する場合は、保守契約も同時に結ぶ。

PC訓練機関 PC-Soft TEL 41083

### 11-3 美容院

美容院は次のとおりである。なお、男性の理髪店を兼ねる。

Lee-Anne Salon TEL 46047

Vicky's TEL 45418

Joy'snas Salon TEL 42707

Nomsa's TEL 43429

料金は Cut が 10 エマランジェニ、Washing and Set が 10 エマランジェニ、Straightning が 45 エマランジェニ、Shaving が 10 エマランジェニ、Facial が 50 エマランジェニ、男性の散髪のみが 15 エマランジェニである。

## 12. 観光

### 12-1 地方旅行上の留意点

外国人の国内旅行に関する特段の規制はない。

地方の治安状況はあまりよくない。地方を観光する場合は土地の事情に通じている人を同伴するか、観光専用車に同乗すること。ホテルを予約し、17:00頃までにチェックインすること。

盗難が多いので車には警報装置をつけ、重要なものは車に残置せず身につけておくこと。夜間は強盗が出るので外出禁止である。

初期の王族の墓がNhlanganoの近くのDwaleliにあるように、ここは家畜の飼育や生活物資の交換に便利であった。Nhlanganoは当国の方都市観光には欠かせない町である。木材とタバコの集積地である。

### 12-2 主要観光地・保養地ガイド

観光のポイントは、次のとおりである。

溶岩が凝結した岩肌が露出して山並みを形成しているのが異形である。山頂に巨岩が乗っていて奇観を成す。

年間降水量は日本の約半分であるが、南アフリカとの国境周辺はユーカリ、松のパルプ材を植林していて、直立する樹木の肌や線が人工の偉觀をつくっている。

国の北半分は谷が深く滝や渓流があり、また丘陵の牧草の緑も美しい。

民族舞踊などにはインクワラ、ウムランガ（リードダンス）、Sibhaca Danceがある。

マンジーニは山岳国の中では展望がよくわりに平坦で交通の要所である。主食ミリミリの製粉工場があり、唯一の商工業都市である。道路と橋梁が整備されつつある。

なお、政府観光案内所（P.O. Box 451 TEL 42531）がある。また、南アフリカにも駐在（P.O. Box 600 Parklands 2121 TEL 7880742）している。総合旅行案内所（Swaziland Safaries P.O. Box 1324 TEL 44522）もある。釣りの許可はMinistry of Agriculture and Co-operatives（P.O. Box 162 TEL 42731）で取得する。

そのほか、主要観光地は次のとおりである。

#### Ezulwini Valley

Smokey Mountain Village	P.O. Box 21, Ezulwini	TEL 61291
Timbali Caravan Park	P.O. Box 1, Ezulwini	TEL 61156

#### Piggs Peak

Phophonyane Lodge and Nature Reserve	P.O. Box 199, Piggs Peak	TEL 71319
--------------------------------------	--------------------------	-----------

#### Mhlambanyatsi

Meikles Mount Country Estate	P.O. Box 13, Mhlambanyatsi	TEL 74110
------------------------------	----------------------------	-----------

#### Motshane

Hawane Park	P.O. Box A225, Swaziplaza	TEL 44522
-------------	---------------------------	-----------

Hlane National Park	P.O. Box 234	TEL 45006
---------------------	--------------	-----------

Malolotja Nature Reserve	P.O. Box 100, Lobamba	TEL 61179
--------------------------	-----------------------	-----------

Mlawula Nature Reserve P.O. Box 100, Lobamba TEL 61179

Milwane Wild Sanctuary P.O. Box 234 TEL 45006

地方のホテルについては、次のとおりである。

Foresters Arms Hotel (P.O. Box 14, Mhlambanyats TEL 74177) ——森のなかにあるホテルで閑静である。首都から約25キロメートルに位置し、付近にゴルフ場、乗馬、釣り、プールの施設がある。

Happy Valley Hotel (P.O. Box 5, Ezulwini TEL 61061) ——国道沿いにあり首都から約20キロメートル。ディスコ、プール、ガソリンスタンド、土産物店がある。

Impala Arms Hotel (P.O. Box 3, Tshaneni TEL 32) ——首都から車で4時間かかり、モザンビークとの国境近くにある。環境、地勢とも当国では特色ある田園地帯である。ポートクラブもあり、釣り、水上スキー、ゴルフができる。

Mantenga Lodge (TEL 61049) ——首都から約20キロメートルの自然林のなかにあり、近くに滝がある。民芸品の製造即売所がある。

Protea Piggs Peak Hotel (TEL 71104) ——首都から約1時間半北上したところにある。自然林およびバルブ材の植林のなかにある。カジノ、プールバーがある。

Nhlangano Sun Hotel ——首都から南へ2時間半のところにある。広大な敷地に山小屋風のロッジが並んでいる。平地で眺望がよい。カジノ、ゴルフ場があり10月頃のジャカランタの並木が見事である。

特產品・民芸品については、次のとおりである。

Baobab Batik (P.O. Box 35, Malkerns TEL 83177) ——バティックで有名である。レストランが付属している。

H.K. Leather Craft P.O. Box 278, Manzini TEL 52664

Mantenga Craft (P.O. Box A5, Swaziplaza TEL 61136) ——陶器、バティック、ステンドグラス、銀細工、木工品、手織じゅうたん、草の繊維のマット、皮革製品、槍、民族舞踊の装飾品、毛糸の手編み品、民芸品に興味のある人は一見の価値がある。

Ngwenya Glass (P.O. Box 45, Motshane TEL 44157) ——ガラス細工の製造販売をしている。置物、コップ、実用品などがある。

Rose Craft (P.O. Box 192, Malkerns TEL 53915) ——モヘア、ハンドスパン、毛織り製品がある。

Swazi Candles (P.O. Box 172, Malkerns TEL 83219) ——装飾キャンドルの製造販売をしている。

Sedco (P.O. Box A186 TEL 43046) ——小規模の各種手工芸品と土産品の製造販売をしている。

## 12-3 旅行

### (1) 自動車

首都圏のホテルから国内の観光地へはすべて車で2時間以内の行程である。

当地のガソリンスタンドは年中無休、24時間サービスであるが地方では夕方閉店する。また、地方では大きな町にしかない。スタンドには修理工場が付属している

ことが多い。現金しか受け取らないところが多い。

地方ドライブの注意点は、次のとおりである。

放牧の牛、羊に衝突しないこと。高速運転中に牛に衝突すればドライバーの生命が危険である。特に夜間は要注意である。

地方の道路は未舗装なので、土ぼこりで視界が悪くなる。また、窓が開けられないでエアコンが必要である。坂道が多く、土ぼこりですべりやすいので注意する。

橋は雨季には水面下となるものが多い。また、欄干がなく狭いので注意する。

道路標識は期待できないので、事前に地図をよく確認しておく。また、道路案内は不備なので当地の人の案内を要する。2台以上でのドライブをすすめる。

ヒッチハイクの人が多い。強盗になることもあるので注意すること。

#### (2) バス

国内長距離バス網は、目的地まで運行するものは少なく、途中の大きな町で乗り換えが必要となる。

主要都市・観光地間は旅行社で手配するバスを利用するのがよい。(ホテルの受付けに問い合わせること)

乗り合いバスはスピードが遅く、冷暖房ともにない。料金は最長距離でも20エマランジェニを超えることはないが、邦人の利用はむずかしい。

#### (3) 鉄道

旅客用の鉄道はない。

#### (4) 航空機

国内路線はない。

サトウキビ農場などの大企業が自家用機を持っている。観光用チャーター機会社には Scan Air Charters (TEL 84331) がある。

### 12-4 旅行代理店

国内旅行代理店は、次のとおりである。

Umhlanga Tours & Safaris P.O. Box 2197 TEL 46416

Swaziland National Trust Commission P.O. Box 100, Lobamba TEL 61151

Wild African Tours P.O. Box 402, Swaziplaza TEL 46455

Capital Travels P.O. Box 2343 TEL 44143

Connections P.O. Box 73 TEL 42298

そのほか、次のような旅行会社がある。

Eco-Africa Safaris P.O. Box 199, Piggs Peak TEL 71319

Overland Swaziland P.O. Box 1324 TEL 44522

Umhlanga Tours P.O. Box 2197 TEL 61431

### 12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

直接予約は可能である。電話予約で十分である。ファックス、テレックスによる回答がほしい場合はその旨申し込むこと。ホテルの受付けとは別に予約の事務所がある。予約番号をくれるホテルとくれないホテルがある。

旅行代理店を通じて予約した場合は、バウチャーを受け取り、ホテルに提示する。  
支払いは、現金、トラベラーズチェック、カードいずれでも可能である。特に有利なカードはない。ヨーロッパで通用するカードはすべて通用する。  
ホテルでデポジットを取られることはない。

### 13. 治安、緊急時の心得

#### 13-1 暴動、クーデターなど

##### (1) 緊急時の連絡

###### ・連絡網

南アフリカのプレトリアにある日本大使館（電話 07-12-342-2100）、また J I C A 本部に連絡する。日本大使館から短波放送がある。（7511 メガヘルツ、9158 メガヘルツ、11127 メガヘルツ）

伝達方法は特に決めていない。

避難方法については、逃げるところがないので自宅にとどまる。所属先に避難するのもひとつ的方法であるが、状況による。ホテルなどに避難するとしても道路が1本しかないので、かえって混乱に巻き込まれる。荷物は放棄するしかない。

なお、1968年の建国以来、暴動・クーデターはない。

#### 13-2 強盗、盗難

##### (1) 一般的治安状況

治安は年を追って悪化している。空き巣、強盗が頻発し新聞をにぎわしている。車両、電気製品、衣類の盗難が多く、残らず持って行く。

これまで人的被害はなかったが、日本人家族も強盗の被害を被った。

警察は被害届を受け付けてくれるが、盗品が発見されることは少ない。

##### (2) 防犯対策

個人住宅（独立家屋、アパートにかかわらず）に住む人は、ガードマンの雇用が必須である。（ガードマンがいてもやられる） また、個人住宅では通常、複数の番犬を飼う。在宅中も門、中門、玄関、勝手、裏口に施錠する。玄関、勝手口には2個以上の鍵をつける。門、中門、玄関にはインターホンを、門、中門、裏口には赤外線センサーを取り付ける。家屋の壁、ガレージの壁、門に外灯を取り付ける。3ミリ以上の鉄板を玄関、寝室、勝手口のドアに張る。留守にしない。カーテンを二重にする。携帯ラジオ、懐中電灯、サイレンの電池を点検すること。

鍵の新設、取り替え、合い鍵の工事と製造については、次のような錠前店がある。

Electronic Installations TEL 53149

Key Hole Enterprises TEL 40807

Meps Swaziland TEL 46870

Radio Link Security TEL 40313

Security Shop TEL 55462

Security Shoppe TEL 41786

個人住宅では鉄格子を設ける。上記錠前店で各種注文に応じる。鉄骨は13ミリ径以上の強度が望ましい。鉄格子は窓の内側に設けるものと外側のものがある。門や中門にも鉄格子をつけることが望ましい。開閉できる鉄格子には施錠を要する。

塀にはコンクリート塀、木材の塀、金網の塀がある。塀の上部または上下に鉄条網を設置する。これはペンチなどで切断すれば弾性で付属の刃物が人間を傷つける。塀の上部に高圧電線を設備する。場所によっては屋根の上にも鉄条網を取り付ける。

屋根から入る強盗がいるので強度に注意する。屋上には到達距離300メートル以

上のサイレンをつける。

車庫には鉄板のシャッターを取り付け施錠すること。内部、外部に照明を設けること。車には盗難防止用に Immobilizar、鬼の手などをつける。

現金、免許証、宝石などを持ち歩かない。夜間外出をしない。夜間は信号が赤でも停車しない。

盗難品が発見されれば警察から通知が来る。

なお、保険会社には、次のものがある。

Swaziland Royal Insurance Co. TEL 43231

Bowring and Mint TEL 42929

Swaziland Insurance Brokers TEL 43226

S & T Insurance Agencies TEL 46072

Edward A.R. & Company TEL 43516

### (3) 被害時の心得

無抵抗に限る。賊が侵入しようしたら、鍵を確かめ、警報装置を作動させる。電話をかけ、隣近所にスピーカーで叫ぶ。

日本大使館、YKK（電話 86188、86026）、JICAに電話する。

盗難にあったらただちに警察に届ける。警察には盗難申告用紙（物品名、価格、状況供述書）が備え付けてある。取り調べを担当した警官のサインが必要である。盗難申告に基づき、事故係が盗難台帳に記載し、登録番号を付与する。その後、この登録番号で保険申請、発見した場合の取り戻しなどの処理をする。盗難品がみつかった場合は警察から連絡がくるので警察倉庫で該当品を探すこととなる。

保険会社では職員を派遣して実情を聴取しにくる。この時、現場写真があると有利になる。

緊急電話は全国 24 時間 .999 番である。そのほかは、次のとおりである。

#### 警察

Mbabane TEL 42221

Manzini TEL 52221

Lobamba TEL 61221

Nhlangano TEL 78222

#### 消防署

Mbabane TEL 4333

Manzini TEL 53336

### 13-3 火災、風水害、地震

#### (1) 一般的災害発生状況

火災はみたことがない。消防署は全国で 6 カ所ある。

インド洋で発生するサイクロンが 50 年に 1 回くらい風水害をもたらす。水道、電気、電話が故障する。飲料水が濁り長期間回復しない。屋根の構造が貧弱なので、屋根全部が吹き飛ばされる。

地震は発生したことがない。

## (2) 防災対策

風水害時をねらった犯罪は発生していない。(災害時の防犯対策は行なわれていない)

停電に備え充電式蛍光灯、ろうそくを準備しておく。

災害時でなくとも断水が多いので濾過した飲料水は常に確保しておく。停電時は薪、ガスボンベに頼ることになる。若干の保存食を貯蔵した方がよい。

避難方法といつても、避難するところがない。(道路網の構成が単純なので自動車で避難しても身動きがとれなくなる)

## (3) 被災時の心得

南アフリカ、モザンビークの日本大使館、JICA本部に連絡する。防災無線網はない。

心身の消耗を防いで救援を待つしかない。

## 14. 出入国手続および帰国手続

### 14-1 入国情

#### (1) 空港施設概要

当国には空港は Matsapa にひとつあるのみである。空港名は MZI (Manzini) である。

#### (2) 入国情手続書類

入国情カード、税関申告書は様式通り記入すればよい。アフリカ南部10ヵ国は SADC 国として特殊な経済関係を結んでいる。したがって隣接国からの入国情手続はわりあい簡単である。食料品、衣料などは個別に評価額を記入する。(用紙は手荷物検査場にある)

ビザは日本ではイギリス大使館で入手できる。南アフリカで取得する場合は、次の事務所で発行される。

Swaziland Trade Mission

Room 915, Rand Central Building, 165 Jeppe St., Johannesburg 2000 (P.O. Box 8030)

ビザにはシングルとマルチがあり、料金が異なる。

当国内に知人がいる場合は、国外から当国入国情管理局に直接ビザを申請することができる。パスポートのコピーと申請書を提出する。許可証を日本にファックスしこれを持参すれば入国情できる。

期間1ヵ月以上の場合やシングルをマルチに変更する場合は入国情後、入国情管理局で料金納入 (80 エマランジェニ) のうえ変更可能である。

外貨持ち込み申告書、動植物検疫証明書はない。

#### (3) 入国情審査

入国情の目的、滞在日数などについて特に質問されることはずない。

#### (4) 税関検査

輸入禁止品目は銃砲類、肉類などである。数量、梱包、形態の制限はない。

税関検査上の留意点は次のとおりである。

荷物はすべて私物であると申告すること。贈答品は課税の対象である。

段ボールは商品とと思われる所以、トランクやスーツケースが望ましい。

数点で組み立てる音響機器などは複数人が分担して搬入するのがよい。

手荷物検査は全部開梱される。

5,000 エマランジェニ以上は課税される。電気製品、自動車部品が重点である。

#### (5) 空港内での留意点

託送荷物が不着の場合は、チェックインカウンターで申告する。不着の場合は翌日到着があるので、空港に出向くか電話で問い合わせる。紛失した場合は保険が適用され現金で返還される。

病気発生の場合は空港職員に手配を依頼すること。空港内に病院はない。最寄りの病院（車で 15 分程度）はマンジーニにある。

#### (6) 空港からのトランスポーテーション

自動車以外に交通手段はない。タクシーはたまにいる。

Sun Hotelのシャトルバスが送迎している。宿泊者でなくともホテルまで乗せてもらい、ホテルからタクシーを呼ぶことも可能である。

レンタカーは、AVIS (TEL 86350)、Imperial Car Rental (TEL 84396) の事務所が空港内にある。レンタカーは予約しておいた方がよい。運転手付きでも借りられ、代金はレンタカー代と同じくらいである。(1ヶ月 5,000 エマランジェニ)

#### (7) その他の留意点

陸路において、当国には次の国境事務所がある。

Bulembu / Josefdal 0800 --- 1600  
Mananga / Bordergate 0800 --- 1800  
Gege / Bothahoop 0800 --- 1600  
Matsamo / Jeppe's Reef 0800 --- 1800  
Lavumisa / Golela 0700 --- 2200  
Ngwenya / Oshoek 0700 --- 2200  
Salithie / Onverwacht 0800 --- 1600  
Lundzi / Waverley 0800 --- 1800  
Sandlane / Nerston 0800 --- 1800  
Mhanba / 0700 --- 2200  
Sicunusa / Houdkop 0800 --- 1600

国境事務所は国境を隔てて当国側と南アフリカ側とにあり、双方で出入国、通関手続をする。当国側では入国申請用紙に記入のうえ入国するのは空港と同じである。手荷物の開梱と X 線検査はない。当国ナンバー以外の車は 5 エマランジェニを支払う。資材を搬入する場合は評価額の 10% の通関料を要する。免税処置には、担当者の証明と大蔵省の認可状が必要となる。出入国税はない。

そのほか、現金、トラベラーズチェック、小切手の検査申請はない。陸路出国時、南アフリカで武器、麻薬の検査が入念に行なわれることがある。南アフリカの車の制限速度は時速 120 キロである。

空路入国の場合、ヨハネスブルグ経由となるが、接続が悪い。空港内にホテルがある。

黄熱病、コレラ汚染地域からの入国には予防接種証明書が必要である。なお、当国入国には予防接種証明書は必要ない。

空港や国境には両替所がないので、南アフリカの空港で両替しておくこと。外貨を当地の通貨に交換するのは銀行で行なうのが便利である。ホテルの両替レートは銀行より悪い。

### 14-2 出国時

#### (1) 出国時の概要

入国時と同様である。

#### (2) 出国手続上の留意点

再入国ビザは滞在中にイミグレーション事務所で取得しておく。

野生動物は持ち出しできない。インバラの毛皮、オーストリッヂの卵の殻などの土産品は問題ない。

空路出国の場合は、20エマランジェニの空港使用料が必要である。

Royal Swazi Airways を除き全席エコノミークラスである。代替機がないので、故障の場合は欠航となる。

#### 14-3 帰国手続

##### (1) 帰国時に必要な事務手続

パスポートについては、変更、更改、渡航先追加などがあれば、プレトリアの日本大使館に事前に要請し、指定の日にとりに行く。

ビザは、Residence Permit を取得した場合は有効期限を確認する。

引っ越し荷物に税金はかかるない。

予防接種証明書は必要ない。

プレトリアの大蔵省に在留取消しの申請をする。

水道、電気、ガスの解約を所定の様式で申告する。解約料がかかる。また、デポシットは返却される。

##### (2) 車の処分

買い手のみつけ方は、新聞に広告を出す、自動車のディーラーに依頼する、所属先で広告する、車に「FOR SALE」と書き連絡を待つなどである。

価格は保険会社、ディーラーに確認する。車の登録票を買った人に渡す。買った人は大蔵省の財務事務所に届け、税金42エマランジェニを支払う。ちなみに、毎年の登録更新税は42エマランジェニである。

売買税はない。

##### (3) 家財道具の処分

日本への輸送手続は運送業者に依頼する。船便の場合は、梱包専用コンテナか混載でMatsapaから列車でダーバンまで運び、そこから船で日本へ向かう。または、車でダーバンへ行きそこから船の場合もある。

運送会社は次のとおりである。

Saflink                   TEL 07-11-407-2222

住友商事系の船会社でヨハネスブルグに日本人駐在員がいる。

Elliott International   TEL 46167

Calvert Removals      TEL 44972

Stuttaford Van Lines   TEL 44762

Trans Global Removals   TEL 44128

Trans Afri Moving      TEL 41409

Inter Freight Swaziland   TEL 42091

郵送小包は、船便では1キログラムまで75.1エマランジェニ、最大20キログラムまで249.55エマランジェニ、航空便では250グラムまで67.05エマランジェニ、250グラム増すごとに13.55エマランジェニ加算される。

EMS便の日本向けは最初の0.5キログラムが67.30エマランジェニ、次の0.5キログラムごとに28.3エマランジェニ加算される。

DHL便も利用できる。(電話 45829)

当国で処分する場合は、ガレージセール、所属先、新聞で広告するなどの方法が

ある。

(4) 住宅の明け渡し

家主への通知は、所属先で家主と契約することが多いので、所属先に依頼する。

不動産会社を介して契約している場合は、その会社に依頼する。

(5) 外貨持出し規制

持ち出し規制はない。

当地通貨は外貨に交換できない。

## 15. 私財の輸送、引き取り、購入

### 15-1 家財道具

#### (1) 輸送業者

運送会社については 14-3 (3) 家財道具の処分の項を参照されたい。

日本から家財を輸送する場合は、JICAより紹介の業者が当地業者と連絡してドア・ツー・ドアの輸送が可能である。料金は数量、重量による。

#### (2) 輸入手続

日本で所定の輸送手続をすれば、当国では特段の手続は不要である。引っ越し荷物が届くまでに住居が決まっていないがあるので、所属先の倉庫などを手配する。所属先の協力を得ること。

通関料は日本から輸出する時に支払う。

#### (3) 家財道具の購入

該当情報なし。

### 15-2 自動車

#### (1) 一般状況

国内に自動車製造業はない。

当国で走っている車の80%は日本車で、南アフリカで製造されたものである。南アフリカには数ヶ所に主要日本車のノックダウン工場がある。また、BMW、フォルクスワーゲンの工場もある。

フォード、オペル、ローバーなどの外車も走っているが、日本車の方が評判がよい。

#### (2) 輸入手続

輸入規制は特になく、どの車種も輸入可能である。排気量も制限はないが、2,000cc 以上が使いやすい。

新車を輸入する場合、当国内のエージェントがすべて代行してくれる。また、日本においてディーラーに委託する。輸送料、通関費用、陸上輸送料などがすべて日本で支払い済みである記載が必要である。

日本からの輸入は、費用と日数がかかるのですすめられない。ただし、日本における当該車の評価額がきわめて安い場合はこの限りではない。当国で手続をし、日本から輸入する場合は6ヶ月以上、南アフリカ製車を当国で輸入手続する場合は2ヶ月程度かかる。費用総額は約30万円である。

南アフリカから輸入する場合は、評価額の 10% の課税がある。

新車価格は例えばトヨタカローラでは 1,300cc が 4 万 4,000 エマランジェニ、1,600cc が 5 万 3,000 エマランジェニ、1,800cc が 7 万 1,000 エマランジェニである。

中古車を輸入する場合、日本で輸送業者が代行してくれるが費用と時間がかかる。必要な書類は、抹消登録証明書（陸運局で発行）、登録抹消に英文の説明を付した書類、車両引き渡し確認書（中古車を港まで運送した業者が発行）、インボイス、パッキングリスト、船荷証券(B/L)、パスポート全ページのコピーおよび当国政府の確認サイン、Work Permit、A-1 フォーム、当国大蔵省通関局の通関無税証明書、州政府発行の本人の所有物であることの証明書(Affidavit For Registration)である。

中古車は車検がないので整備次第で価格は大差がある。ただし、日本のように年数で急な値下がりはない。価格はマークIIの1983年が1万3,600エマランジェニ、1987年が2万2,500エマランジェニ、カローラの1991年が2万エマランジェニである。

車両の輸入手続を代行するメーカー エージェントは、次のとおりである。

Cooper's (Audi, Mazda, Mitsubishi, Rover, BMW)	TEL 42032
Tracar (Mercedes, Nissan, Uno, Honda)	TEL 40691
Swazi Delta (Opel, Isuzu, Suzuki)	TEL 43501
Leites Motors (TOYOTA)	TEL 43536
Sir Motors (FORD)	TEL 42105

#### (3) 任国での購入

ディーラーなどから購入する。決済方法は銀行小切手が一般的である。

当国での購入に際し必要な書類はない。

手続期間は新車で1ヶ月、中古車で3日である。

費用総額は免税となり、原則として費用はかかるない。

購入に際し特に留意する点は、納入日を明確にする、試乗する、よく行く修理工場があれば引き継ぐ、弱点があれば聞いておく、保険条項を詳細に取り決めること(例えばフロントガラスの保険)である。

#### (4) 自動車登録

自動車登録に必要な書類は、個人の納税者番号と登録用紙である。

初回登録手続(購入→登録様式記入申請→登録料支払い→登録書(Blue Book)交付→ステッカー交付)はディーラーに依頼する。2回目以降の手続は、登録更新書記入申請→更新料支払い→登録書に延長許可スタンプ押印となる。登録の場合は車体番号のみならずエンジン番号も登録する。自分のメモにも残しておくとよい。

所要時間は待合わせ人数にもよるが1時間ほどである。各州(4州ある)に1ヵ所の登録所がある。

初回登録料と毎年の更新料は同額である。両方とも重量税である。

なお、名義変更は5人分まで、登録更新は12年分まで可能である。登録や更新に実物を持参する必要はない。

#### (5) 免許証取得

ナンバープレートの種類は、次のとおりである。

SDCDxx	外交官用
Sxxx	軍隊用
SGxxx	政府用
SDxxx	一般用

プレートは黄の地に黒文字で、形状は長方形または正方形である。

ナンバープレートの取得手続は、登録書に番号を記入してくれるのでこれを持ってプレート店に注文に行く。あいていれば30分で作成、取り付けしてくれる。前部、後部用で取り付け料とも48エマランジェニである。

車検はない。

運転免許証については、日本で発行された国際免許証を提示し自動車登録所で当国の運転免許証を発行してもらう。当国で新規に取得する場合は、運転練習場に通う。試験は、路上走行、車庫入れおよび法規試験である。教科書をひとつおり読めばパスすることは困難ではない。

政府車を運転するには別の免許証が必要である。

当国の運転免許証は旧イギリス植民地国内どこでも通用する。また、SADC 10ヶ国内でも通用する。

#### (6) 保険、税金

自動車保険には、予想されるすべての損害に対する総合保険（保険料が高い）と、1,000 エマランジェニまでの免責条項付き保険とがある。料金は保険の種類と車の評価額により異なるが、例えば評価額が2万エマランジェニの車で1,000 エマランジェニまでの免責条項付き保険の場合、年額3,000 エマランジェニである。

次の保険会社で取り扱っている。

Swaziland Royal Insurance Co.

Lilunga House Gilfillan St. TEL 43231

保険金の支払いについては上記保険会社で所定の手続をする。警察の現認書が必要である。

税金については、次のとおりである。

国内における売買には税金はからない

新車には評価額の 10% の課税がある。

輸入新車は輸入税 11% の課税がある。

政府間贈与にも 10% の課税が原則である。

## 16. 社交

### 16-1 風俗習慣

#### (1) 一般事情

パンツー系の風俗習慣を色濃く残している。正装は裸である。国王はじめ王族、政府高官も国の伝統行事には裸に簡単な飾りをつけた衣装をまとう。自宅や半公式のパーティでも主催者は裸に民族衣装のことが多い。勤務先に裸の民族衣装で出勤する人もまれではない。

結婚式、葬式は重要な社交の場である。一夫多妻の習慣がある。

### 16-2 パーティでの留意点

特に禁忌事項はない。一般的ヨーロッパ風礼儀作法を守ればよい。

長幼の序があり老人は何事も優先される傾向がある。

左手は不浄とされるので、食べる手は右に限る。生ものに注意する。

招待状を受け取ったら電話で出席・欠席を通知すること。

### 16-3 来客時の留意点

停電時のための懐中電灯などを準備する。

スリッパを好む客のため若干用意した方がよい。

ガードマンに予告しておくこと。

犬をつないでおくこと。

### 16-4 訪問時の留意点

遅刻はスワジ時間と称してあまり気にしない。

通常の握手のほか、親愛を込めて親指を絡める握手をすることが多い。一夫多妻であり、夫婦で挨拶することは少ない。

### 16-5 禁止されている言動

特になし

17. 任国官公庁

該当情報なし。

18. 在外日本関係機関など

日本政府関係機関はない。

19. 地方都市

長期専門家の滞在している地方都市はない。

## 任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願ひいたします。

[送付先] 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5

国際協力事業団国際協力総合研修所

技術情報課 任国情報係

国名	年度	年版	
氏名	年齢	歳性別 男・女	
利用区分	所属(担当)	部課名 指導科目	派遣期間
JICA役職員			
JICA専門家等			
その他	(所属先)	(当該国での滞在期間)	
住所			
電話番号	日付	年月日	
ページ	行	内	容
記事	国総研記入欄		
	技術情報課確認印		
	データベース修正処理	課長	代理
	月日	月日	月日
	担当	月日	月日

## 任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムとしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

### -----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア  
(ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム

### -----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、アラブ)
16. イエメン (サウジアラビア)

### -----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

### -----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー

### -----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エティオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. コートジボアール
11. ケニア
12. リベリア
13. マダガスカル (アンタナナリボ、ディエゴ・スアレス)
14. マラウイ
15. モーリシャス
16. モザンビーク
17. ニジェール
18. ナイジェリア
19. ルワンダ
20. サントメ・プリンシペ
21. セネガル
22. セイシェル
23. ソマリア
24. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
25. トーゴ
26. ザイール
27. ザンビア
28. ジンバブエ
29. スワジランド

### -----中南米地域-----

1. アルゼンチン
2. ボリビア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ボルトアレグレ、ペレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンジュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ



「任国情報（スワジランド）1995年版」

平成7年3月20日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

編集協力 財団法人 日本国際協力センター





